

## 長野県松本市

### ■調査項目

#### 議会改革について

#### ・調査対応者

松本市議会議員 大久保真一様

松本市議会議員 阿部功祐様

松本市議会事務局 次長補佐兼議会担当係長 逸見和行様

#### ・調査期日

平成28年5月12日（木）午前9時30分～午前11時30分

#### ・松本市の概要

人口：241,680人

世帯数：102,493世帯

#### ・調査目的

呉市の議会をより活性化させるため、当市の事例を学ぶ。

#### ・調査内容

##### 【松本市からの説明】

##### ◆松本市議会基本条例

H21年3月に身近な議会、行動する議会を目指し上記条例を制定

##### ◆推進組織の設置

議員一人ひとりが責任と自覚を持って推進するため、活動原則に即して下記3部会を設置。自ら企画・立案、運営を行っている。部会で検討した内容は議会運営委員会で協議・決定を行い実行に移す流れである。

##### ①政策部会

- ・政策提案、政策提言の仕組み研究、検討。
- ・議会運営の充実または効率化の検討。
- ・議員研修の企画及び運営 等

##### ②広報部会

- ・情報発信及び情報提供方法の検討。
- ・議会報告会の企画及び運営。
- ・議会だよりの編集 等

##### ③交流部会

- ・市民参加及び市民連携の検討。

- ・ 市民意見の把握方法の検討。
- ・ 他市議会との交流・連携方法の検討 等

◆ 議会こども控室

議場の前に設置されており、お昼に議会見学へこられた主婦層をターゲットとしたサービスである。予約制で保育士の派遣も可能。前年度は2-3回の利用でありより利用者が増えるように今後していきたいとのこと。

◆ 課題

庁舎のレイアウト（質問台がない）と一問一答方式の導入。

【質疑応答】

Q、議会報告会の成果は。

A、連合会町へ回覧を私直接お願いにいく。遠方の地域では、なかなか受け入れられないのが現状。地理的な問題が大きいが集客方法は課題である。鎌倉市、姉妹都市の藤沢市の例でもあるカフェスタイルの導入など検討していきたい。報告会の開催は夜の1930～行っていた。

Q、市民交流との違いは。

A、勉強会であることが大きい。

Q、議会報告会の班編成は。

A、常任委員会の数名、その他議員数名、開催地の議員を含めた構成です。

Q、常任委員の任期が1年だが何か理由があるのか

A、新人議員を1人気中に1つの委員会につかせたいという思いがある。各分野の委員会で調査研究し、自己研磨する。一方で短くうわべだけの知識になってしまう、また委員長経験者が何度も兼務するような人材不足も問題である。

Q、スマホの録画配信などされる予定はあるか。

A、検討中である。他の市議会議員からも同様な質問があり、身近な議会を目指すにも必要である。現在はユーストリームでの配信を行っております。

Q、高校への議員出前事業をされておりますが、これは選挙管理委員会の管轄ですか。

A、いえ、議会事務局で行っております。高校生の授業は議会が受け、試作的に行っている。今後、若者の意見が具現化するような取り組みも面白いと考えており、陳情を出すように働きかけているなど、発展していけばいいと考えております。

Q、正副の議会立候補制はありますか。

A、あります。5分の所信表明を行った後、投票となります。

Q、提言について執行部の反応は。

A、無視されるものもあれば、事前に情報がもれ、先にされているなどのケースがある。

Q、政策提言と報告書とのちがいは

A、政策提言は議会がだすもの、報告書は委員会のみ。政策提言は全快一致。

Q、委員会はインターネット中継などしているか。

A、インターネット放送は定例会、全議員会議のときのみ、委員会などは録画もされていない。

Q、議会食糧費執行報告書とは。

A、お土産代にしている。

#### 【呉市での展開の可能性】

議会運営委員会の下に3部会の組織がある構成は非常に面白い。当市の目的でもある各議員一人ひとりが自覚を持って、自発的に議会について考える仕組みができていていると感じた。どうしても呉市において、議会運営委員会の委員でなければ、会派代表者説明などが定期的にはあるが、リアルタイムにどういった動きをしているか把握が難しい。また、どういった課題があり、他市ではどういった事を行っているか把握することも、能動的に動くか受動的に動くかでとらえ方や考え方は違うと考えます。高校生へ議員が出向いて授業を行う仕組みなどは、交流部会という実働部隊がいたからこそなしえたものではないだろうか。一問一答方式ではない、議会報告会の仕組みは完成しているものではない等、当市では課題も多々あるが、議員一人ひとりの改革意識は高い。

呉市において生かすとすれば、松本市が議会改革で行ってきた成果で、本市に足りないものを早急に検討し、各議員一人ひとりに考えてもらう機会を作ることである。正副議長選挙の導入、高校への議員出前授業、議会広報誌等、考察すべきことは多い。

## 富山県富山市

### ■調査項目

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

#### ・調査対応者

富山市都市整備部都市政策課 主幹 高田 秀昭 様

富山市議会事務局議事調査課 主任 金井 沙織 様

#### ・調査期日

平成28年5月12日（木）午後15時15分～午後16時45分

#### ・富山市の概要

人口：418,179人

世帯数：172,744世帯

#### ・調査目的

先進的な事例を学び、呉市の公共交通発展と都市計画マスタープランの一助とする。

#### ・調査内容

##### 【富山市からの説明】

##### ◆富山市の目指すコンパクトシティ

富山市では中心市街地以外に、地域の拠点になっている地区が点在しており、コンパクトシティを実現する上で、中心市街地に一極集中するような都市構造を目指すことが、あまり現実的でない状況である。

また、地方都市として比較的恵まれた鉄軌道網を有していることも大きな特徴であることから、これらの運行頻度の高い幹線バス路線で地域の核となる生活拠点を結び、それぞれの拠点ごとにコンパクトにまとまっていくまちづくりを推進することとしている。

徒歩圏の中では、徒歩や自転車を日常的に利用し、徒歩圏間は便利な公共交通で移動することによって、車が自由に使えなくても、正確に必要なサービスが享受できるまちづくりを目指している。

##### ◆背景（なぜ交通政策を軸に）

- ・富山港線をH18年に終える必要があった
- ・北陸新幹線の開通や、市町村合併が決まっていた。

##### ◆事業概要

- ・公共交通の活性化

前提に公共交通機能が残っていた。今ある公共交通を便利に、市民にとっていいか。LRT ネットワークの形成、歩いて暮らせるまちを実現（H18）。市内電車環状線化（H21）新たな路線をつくるというのではなく、今ある路線を活用する。いずれ立山までLRT化をしたい。

- ・ライトレールの整備

運行サービスの向上→30～60分間隔を15分間隔へ、終電を23時へ。

- ・セントラムの整備 環状線

- ・コミュニティバスの本数増便

- ・公共交通沿線への居住推進

建設事業者への補助70万、市民向けへの補助も。

#### ◆効果

- ・公共投資が呼び水となり市街地再開発事業など民間投資が活性化。

- ・転入人口の増加、社会動態がプラスになった。

- ・地価の上昇、固定資産税の増加、税収のup

- ・国際的な評価。OECD 世界を代表する5つのコンパクトシティに取り上げられる。⇒メルボルン、バンクーバー、パリ、ポートランド、富山

#### 【質疑応答】

Q、資料において数値の分析が鋭い、何か手本にされたのか。

A、中央職員との人材交流があり、国の第一線で活躍される職員と肩を並べ、仕事に取り組んだ結果でないでしょうか

Q、首長は元官僚の方とかですか

A、国道交通省にいた人間です。公務だけでなく自ら海外などに行き、面白いと思った事をすぐ進めるひとです。花トラム事業という、花を持ってトラムに乗れば、割安になる制度なども始めましたが、これはブラジルで見たそうです。男性が花束を持って歩く姿が多くあり、街を彩る。こういった風景が素敵であると考えたそうです。

#### 【呉市での展開の可能性】

大きな政策過ぎが故、可能性については想像できないというのが正直な結論である。しかし、呉市も富山市を見習い、現在より公共交通を充実させなければならないのは確かである。中心地区以外に地域拠点が点在するのは呉市も同じであり、拠点と拠点をより太い線で結び、そこから中心地へ向かうアクセス、そして中心地での周遊アクセスと団子型に作っていく。トラムを今から作ることは不可能に近いが、それにかわる公共交通網の仕組みづくりを早急に検討しなければならない。

加えて、感じる事は、当政策を推し進めるため、強いリーダーシップを持った実行力者がいなければ、このような大きな政策は打てない。ひとつ軸を持って何をすべきか、またそれにむかってどのような準備をすべきか、数値の分析～実行まで、市全体で取り組むことが必要である。呉市においても何を柱に、街を盛り上げていくのか、強いメッセージを伝えていかなければならない。

## 石川県金沢市

### ■調査項目

#### 金沢21世紀美術館企画運営について

##### ・調査対応者

総務課総務課長 小林敏明様

総務課課長補佐 桑原健次様

##### ・調査期日

平成28年5月13日（金）午前9時30分～午前11時30分

##### ・金沢市の概要

人口：447,749人

世帯数：194,536世帯

##### ・調査目的

金沢21世紀美術館の企画運営、公共施設の在り方について

##### ・調査内容

#### 【金沢市からの説明】

機能集積、新たなまちの賑わい、文化の創造を目的に平成16年10月にオープン。金沢城公園、兼六園に隣接。中心商業地にも近く周辺環境に調和した美術館である。多くの歴史・伝統、そして歴史的な建造物を有する圏であるが、伝統を単に過去の形式を踏襲するものではなく、革新の営みにより、新たな価値を創造するものと位置づけ現代美術館として設置した。

#### ◆施設概要

- ・敷地面積 約2万7千㎡ ・延床面積 約1万7千㎡
- ・円の直径 113m ・高さ 15m ・外周350m
- ・壁面のガラス 112枚（厚さ4cmのペアガラス）
- ・全体事業費200億円（建設費約113億円、用地費約78億円、ほか）
- ・入口が4カ所（表と裏のないアートサークル）
- ・入館料のいないフリーゾーンの設置
- ・設計者は世界的に有名な妹島和世と西沢立衛
- ・財団運営により36名で運営（内市派遣職員7名）

#### ◆利用状況

- ・平成26年度  
入館者数（センサー通過人数）⇒1,761,324人  
展覧会入場者数（有料ゾーン）⇒394,920人
- ・サスティン会員（法人会員）130社

・友の会会員（個人会員）約2,000人

◆予算

28年度予算：約8億4千万円

財源⇒市負担4.3億円、観覧料等収入3.6億円、物販等収入0.5億円

支出⇒施設管理費3.6億円、人件費2.4億円、事業費2.4億円

【質疑応答】

Q、メディアに取り上げられ、無償の宣伝効果が望めてきましたが、今後、能動的にPRしていく施策など考えられていますか。

A、特に具体的には考えていない。マスコミが取り上げてくれるので、それ以上の効果が見込める広報活動が見つからない。

【呉市での展開の可能性】

徒歩圏内、もしくは自転車圏内でのコンテンツを強化する必要がある。また、指定管理において充実した施設運営を行うために適切な予算を配分しているかどうかのチェック（尺度）を充実させるべきであると考えます。

当初、市の負担として6億円を見越していたが、安定的な観覧料収入により約1.7億円減の4.3億円となっている。この成果は当美術館の魅力が要因であることはもちろんであるが、兼六園などのコンテンツや商業施設が密集する中心市街地の隣接も大きな要因であることは間違いない。事実、入館者数は平成26年度において入館者は1,761,324人、入場者394,920人と、入場者数割合でいうと22.40%になる。

呉市に置き換えると、この逆ではないだろうか。大和ミュージアムを目的にきた観光客は、その目的を終えると広島市街、宮島などへ向かうため、人の回遊性がない。要は、たくさんあるコンテンツの中のひとつではなく、大和ミュージアムという強力なコンテンツを中心としたまちづくりを考えなければいけない。そのためには周辺観光地の魅力向上、そしてアクセスの利便性向上など駅周辺の開発が不可欠である。回遊性の向上と、より市民の誇れる地域として考えなければならない。

次に適切な予算について記述したい。金沢21世紀美術館の場合、周辺の芝が荒れている箇所が散見される。外にはアーティストが思いこめて作り上げた作品も並んであるが、芝が剥がれている箇所などが目にうつると少し寂しさを感じる。安定した観覧料により、施設整備が充実しているかと予想していたが、逆に市の負担が減った分、他の財源に回すという状況であるそう。市の考えとして、「美術館だから」「他の施設との兼ね合い」として、施設整備がかなわない状況である。このケースにおいて思うべきことは、結果（数字）を残している指定管理者に対して適切な予算を組むということである。どれだけ財源確保に寄与したか、どれだけ費用対効果が大きいかを総合的に考え、施設維持管理費などの予算を考えるべきである。



呉市において、大和ミュージアムを軸としたまちづくりを考える可能性は大きい。その場合にどう回遊性を向上させるか、呉駅周辺なのか、島嶼部含めた回遊性なのか範囲の設定、そのためにどこにどう予算を組むのか見極めなければならない。